

小学校に勤務するようになって1年以上が過ぎた。教育学部に籍を置く私も、初等教育の現場を肌身で感じるのは初めての体験だった。一番感じたのは、小学校教員の熱意と勤勉さが日本の文化を支える国民性を生み出してきたという点である。

協調性や勤勉性、我慢強さという、世界的にも評価される日本人の徳の多くは小学校のしつけの基本である。また小学校の学校生活で重要な位置づけを持つ学校行事（運動会、学芸の発表会、遠足、修学旅行など）も、こうした徳を高め、またそれによって成り立っている。

教員の熱意の中でも、授業づくりに対するそれには頭が下がる。勉強を好きでする子どもなど多数派ではありえない。子どもにいかにも興味を持ってもらうか、そして「ご褒美」を与えてやる気を継続させるか、指導場面を振り返っては、こうした点の研鑽に暇がないのが小学校教員だ。もちろん、私が勤務しているのが大学の附属学校であるという面は大きい。だが、公立学校でも研修の盛んな学校は少なくないから、決して大学の附属学校特有の現象ではないのだろう。

立場上、様々なスポーツ指導者のノンフィクションやドキュメンタリーには目を通すようにしている。

自らが最高位を目指す一方で、自宅の庭に私財を投じて道場を建て、ただ同然で子どもに剣道を指導する剣士、赴任先のアフリカの国で軟式テニスを伝え、国内で使われなくなったラケットを集め普及に尽力する技術者、学校教員の指導への熱意は、スポーツの指導者に通じるものがある。

翻って、6月上旬にJOAによるディレクター講習会が愛知県で開催された。短い広報期間が災いしたとは言え、参加はディレクター1級、2級合わせて4名。それぞれ2名ずつしかいなかったということだ。平成14年以降、大幅なカリキュラム改訂を行い、おそらくどのスポーツ団体と比べても遜色ない内容とレベルの講習が提供されている。

内容の一例を挙げれば、オリエンテーリングをプロモートするためのピラ作り。オリエンテーリングの特徴を端的に表すキャッチコピーを考えて、対象に応じたピラをデザインする。ある



6月上旬に愛知で開催されたディレクター講習会。医師でもあるオリエンティアの講師愛場氏が、救急とリスクマネジメントについての講義を行っている。人数は寂しいが、一方的な講義ではなく、中身の濃い議論が行われた。

いは、初心者指導のための技術段階を学習した後、それを生かしたレッグやコースを設定する。またそれに応じた指導案を作成する。明日からでも役立つスキルとノウハウが提供されている。しかも、それらをファシリテートするのは経験豊かな講師陣だ。

オリエンテーリング愛好者の多くは、オリエンテーリングに魅力を感じ、自ら楽しんでるのは当然として、願わくばそれをより多くの人に味わってもらいたいと願っているだろう。だが、その願いを現実のものにするためには、スキルが必要だ。高いスキルとそれを使いこなす経験の蓄積があってはじめて、受講者の高い満足が生まれる。それが指導者としての達成感にもつながる。そうして個人の中に蓄積されたスキルはオリエンテーリング界の活性化に波及する。

実は今登山からアウトドアスポーツに至るまで、ナビゲーションに対する関心と興味は高まっている。登山の世界では1990年代後半より道迷い遭難が重大な課題と認識されている。また比較的身につけやすい明確なスキルとして習得の目標ともされている。トレイルランニングの参加者は、比較的そうした意識が低い。昨今のトレイルランニングへのバッシングは、彼らが安全のためのスキルやマナーを身につける方へ意識をシフトさせるきっかけとなるだろう。

オリエンテーリングのスキルアップや後進育成はもちろんだが、新しい教材に対して目をきらきら輝かせている子どものような学習者が、オリエンテーリングの外に目を向ければ数多くいる。彼らの満足げな表情という指導者最大のご褒美を、より多くのオリエンティアに味わってもらいたいと願っている。

村越 真
静岡大学附属静岡小学校校長
JOA 業務執行理事